

# 自蹊庵便り

令和元年 長月

NO 139

山幸 海幸 水の神

暑中お見舞い申し上げます。…と申します。

しても皆様のお手許に届く頃には、秋の気配忍び寄る頃にございましょうか。年々まことに酷暑の増す心地にございますが、このようなとき、帽子の下に梶や桑の葉などの大葉一枚置くだけでも、熱中症予防に大いに役立ちます。（毎年夏号には載せております）

私は起きて半畳、寝て一畳のたとえに似て、ほんにわび住まいでの起き臥しにございますが、九十九里の海近くに住まいし、波音を聴きたくなれば、さつと車を走らせ十五分ほどで大海原を満喫でき、夜空が満月であれば、大潮に遊ぶ貝や小蟹の戯れに心を遊ばせております。

私の多忙さを御心配くださる言葉を事あ

る」とに賜ります。有難いことにございますが、私は鈍感力も手伝つてはいるかと存じます。

すが、忙中閑の過ごし方の天才のようです。いえ、いいえ、天才なのは私ではなく雄大な大自然の営みが醸し出す波動、即ち治癒力です。家に在る時は、海辺に遊び、山に在るときは日もすがら、川の流れの傍らに心遊ばせております。

それでも貧乏性なのでございましょう。御縁を賜つてはいる二割ほどの方々が、御両親や御主人の介護の日々、更に三割ほどの

齢を重ねる」とに、忙中閑、閑、閑でござります。閑という一時の恵みに感謝し、元気の気、気の元の気を大自然の波動に抱かれて、私の免疫力、快復力は生まれていますが、九十九里の海近くに住まいし、かれて、私の免疫力、快復力は生まれてい

るようです。

自然の営みとの語らいは饒舌です。尽きましたら、山に遊びにいらしてください。

この出会い物同士を引き合わせてくれる、こ

の上なく有難き恵みに感謝の日々にござい

ます。

季節が運びくれる力、人の手を加える余地のないほどの完全さで呼応しあつております。

それでも貧乏性なのでございましょう。皆様が御自身とのなんらかの病と戦いの日々、生きるということの苦しみと悲しみを背負つてはいる皆様にはささやかに祈ることしかできぬ無能者にござります。

なれど、どうぞ時間ができるようになり

は山の幸を！海にては海の幸を！季節折々は山の幸を！海にては海の幸を！季節折々ばせてください。近くには温泉もあります。

おろしているうちに山籠もりの準備もまま

ならず、充分なお持て成しもできませんで  
したが、四人の皆様が、水汲み小屋に御参  
加くださいました。毎年、八月一日から五

日までは山中湖近くの道志村の水汲み小屋  
にて過ごしております。十人ほどの時もあ

れば、お一人の日も、五、六人のときもあ  
ります。皆様の御都合任せ、思い思いに水  
を汲み、一服を味わつていただき、過ごし  
ていただけたら…と、忙中閑、閑！水の神

様にも出逢う心地して、清き水に感謝！自  
然の雄大な営みに頭を垂るる、そのような  
日が一年に一度ぐらいあつても宜しいかし  
ら…と思い、水汲み小屋を開放しておりま  
す。

幼き頃より持ち合わせ少なき身ながら、

自然の恵み豊かな所に身を寄せ、まるで宿  
借りのように生きてまいりました。それ故  
にお人より快復が早い体を養つてきている  
ように思います。

一服のお茶まずは清き水、旨し水あつて

皆様もどうぞ疲れをため込まぬうちに上  
手に自然の気に満ちあふれたところに、御  
自身を解放してあげてくださいね。

地球上の大先輩は樹木です。森羅万象、

生きとし生けるものなべて、清き水涌く所  
なくしては生きることができません。清き  
水からは清き波動が伝わつてまいります。  
人間様も体の七十%は水なのでから、こ  
のよう清き水が流れていなくてはいけな  
いのだ…と。

先号では太陽を一杯浴びた野菜をしつか  
り食べ、生命素の力を戴きましよう…と、  
葉力素の大切さをお出ししましたが、私達  
が生きていく上で最も大切な物、それは水

です。

始めて適うことにござります。

この世に生を受ける前の受精卵のときは  
九十九%が水だそうです。健康な人体は七  
十%の水、なればほとんど水で出来ている  
と云つても過言ではなさそうです。死ぬと  
きはよく枯れるように死ぬと云いますから、  
その頃には五十%を切るのかしら…？だと  
すれば、清い天然の水をいつも沢山飲むよ  
うに心掛ければ脳にも酸素が行き届き、齡  
をとるのも少しは防げるのかしら…？人間  
の体、そう単純ではないかも知れないとも  
思い、いやいや案外、清き水涌き出づる所、  
命うるおい、心調う、このシンプルライフ、  
当たらずといえども遠からずやも…。

清き水を汲み、飲み、水々しい（瑞々し  
い）感性を養う。そのような一服の時であ  
りたいですね。皆様と共に！

山に在れば 山に声あり このタベ

海に聴いて 海の声聴く 鶴女

令和元年 夏

## お知らせとお詫び

湯河原教室 口悦会

九月十三日より十月十五日まで  
ドイツ出張中につき、茶事以外の  
各教室は全てお休みとなります。  
御了承ください。

なお、八月休講予定でした羅漢寺

その他の各教室は左記の通り、

八月末に連続して行います。

十月の教室についても実施期日

に変更がございますので、御注意  
ください。

会費 一日五千円

二日間 八千円

申込は、事務局 服部 宏子 様

## 教室の御案内

神奈川県足柄下郡

八月二十一日（第三水曜）柏泉亭

湯河原町宮下757-13

八月二十三日（第四金曜）市川会

八月二十四日（第四土曜）羅漢寺

栃木教室 口悦会

いずれも

午前十時から正午 昼食後解散

会費 五千円

八月、九月は休講です。

十月十七日（第三木曜）

## その他教室

柏泉亭 十月十六日（第三水曜）

市川会 十月十八日（第三金曜）

羅漢寺 十月十九日（第三土曜）

## 東金教室

長月の茶事（重陽）

九月八日（第二日曜）正午

九月九日（第二月曜）正午

九月十日（第二火曜）正午

席入 午前十一時半

点前担当、者、水屋実習者 午前九

時八時半に大網駅にお迎えに上がって  
おります。

神無月の茶事（名残）はお休みです。

○連日研修者は、翌日は五千円参加で

○宿泊希望者は、早めにお申し込みく  
ださい。七名まで一泊二千円です。

利休会記を読み解く会

十月二十一日（第三月曜）

旬の食材を楽しむ会

十月二十日（第三日曜）

八月、九月は休講です。

旬の食材を楽しむ会

長月の茶事（重陽）

九月八日（第二日曜）正午

九月九日（第二月曜）正午

九月十日（第二火曜）正午

席入 午前十一時半

長月の茶事（重陽）

九月八日（第二日曜）正午

九月九日（第二月曜）正午

九月十日（第二火曜）正午

席入 午前十一時半

点前担当、者、水屋実習者 午前九

時八時半に大網駅にお迎えに上がって  
おります。

神無月の茶事（名残）はお休みです。

○連日研修者は、翌日は五千円参加で

○宿泊希望者は、早めにお申し込みく  
ださい。七名まで一泊二千円です。

## 九月の京都教室の詳細

読み解く会のみ参加者

会場：大徳寺瑞峯院内余慶庵

九月三日(火) 重陽節供点心作り

一日 二千円

(午前九時～正午) 優食会

二日間 三千円

八月三十一日(土) 準備

都合のつく方は

三日間 四千円

午前九時～午後四時 (午前七時、

(午後二時～午後五時) 片付、掃除

四日間 五千円

搬入手伝いは都合の付くスタッフ)

九月一日(日) 重陽茶事実習

優食会会費 連日参加者 五千円

珠洲焼イベントのお知らせ

準備 九時

席入 十一時半

九月二日(月) 一日と同じ

コンドミニアムイルヤ

一泊 五千円 (朝・夕食込み)

及び講演を予定しております。

茶事教室会費 二万円 (レギュラー)

きらら山荘(関西セミナーハウス)

(準備のため二十三日には珠洲入り)

二万三千円 (年三回以上参加)

シングル一泊六千五百円～

お問い合わせは珠洲市観光交流課

二万五千円 (単発参加者)

TEL 0768-18217776  
FAX 0768-18215220

※利休会記を読み解く会は、

宿にて夕食後午後七時～午後九時

※連日参加者の会費について、

一日分は正規の会費、

他の日は一日五千円の研修費

となります。

会費 茶事参加者無料

NHK講演のお知らせ

九月十二日(木) 十時半～正午

松本NHK文化センター